

群馬県内には1万を超えるたくさんの古墳があります。

その中でも代表的な綿貫観音山古墳をこれから紹介しましょう。

この古墳は方丘（四角形）と円丘（円形）を組み合わせた形で、前方後円墳と呼ばれる長さが100m近い大きな古墳です。

今から約1400年以上前に造られたもので、現在の高崎市を中心とした地域を支配した人のお墓と考えられています。

古墳の上に登ってみましょう。四角形と円形を組み合わせた形がよくわかると思います。

石室の入口は南に向いていますが、石室の向きというのはだいたい決まっていて、ほとんど南の方向に向いているのです。

また、石室の前には武人や巫女などの人物や馬などをかたどった埴輪と呼ばれる土製の人形が置かれていました。いったい何を表現しているのでしょうか。



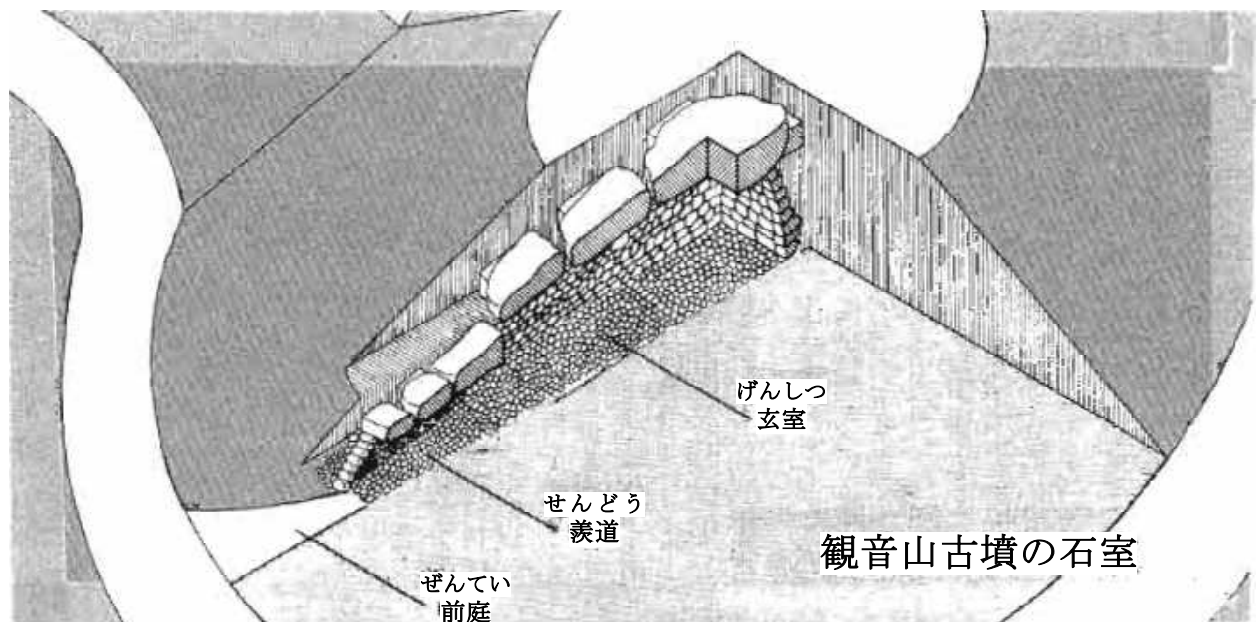
お葬式の様子を表したものと考える人もいますし、さまざまな考えがあります。皆さんも考えてみてください。

石室の中の様子はどのようなになっているのでしょうか。

石室に使われている石ですが、天井の石は、ここから南西の方向に10 kmほど離れたところにある高崎市吉井町の牛伏砂岩という種類の巨石（一番大きい石の重さは25トン）を6つ使っています。

石を切り出した後、どのようにこの巨石を運んだのか考えてみてください。舟を使い、そりで引き上げたと思われますが、それにしても大変な作業だったと思います。壁石は榛名山の火山岩を使用しています。

石室は、入口部分の狭い通路（羨道）と奥の幅広い遺体を置く場所である玄室があります。



石室の全長が約12.5 m、玄室の長さが約8.2 m、幅約3.8 m、高さ2.3 mで、群馬県内の玄室では最大の大きさです。

この石室が発見された時、調査をした人たちの興奮はすごいものでした。それというのも、古墳の石室はたいてい既に掘られていて、中に納められていたはずの物は盗まれている場合がほとんどなのです。

ところが、幸運にもこの古墳の石室は、崩れてしまっていたために、墓泥棒が掘り出すことができず、当時お墓の主のために納められていた品々がそっくりそのまま出てきたのです。

このようなことは、全国的にも大変めずらしいことなのです。

石室内にあった遺物は生前お墓の主が使用したと思われる刀やかぶとなどの他、主を乗せた馬を飾り立てた馬具などが出ています。どれも、金や銀を多く使って豪華な仕上がりになっています。

それでは、出土品の中から特に注目すべき品を2つ紹介しましょう。

1つは、鏡かがみです。当時の鏡はその裏面に様々な文様もんようをほどこしてあるのですが、観音山古墳から出た鏡2面のうち、獣帯鏡じゆうたいきようと呼ばれる鏡についてとても興味深いことがわかったのです。というのは、この鏡と全く同じ文様の鏡がお隣の韓国の百済くだらという国の王様であった武寧王ぶねいおうのお墓から出てきたのです。



2つめは、銅製の水瓶すいびよう（水差し）です。奈良県の法隆寺ほうりゆうじの宝物にも似たような形のものが残っていますが、中国の北齊ほくせいという国のお墓からやはりよく似た形のものが出ています。

この2つのことから、当時のアジアの中国、朝鮮半島、日本の中で、物の交流があったことが分かります。

このように、今から1400年以上ものむかしにも、アジアで様々な交流があったことを知ることができた貴重な遺跡が観音山古墳なのです。



～見学するみなさんへのお願い～

○芝生は古墳を守るためのものです。

芝生には入らないで下さい。

○ゴミは持ち帰りましょう。

○みんなの文化財を大切にしましょう。

